

2010年度 中学入試

学校情報FLASH!!

CHAPTER. 8

(2009. 10. 5)

成基コミュニティ 学校情報室

入試本番に向けて、準備開始！！ ～「プレテスト」・「前入試」・「内申が必要な学校」～

～ はじめに ～

夏休みも終わり、小学6年生にとっては入試本番がいよいよ近づいてきました。秋は、第一志望の入試日に向けて具体的な準備を始める時期です。今回は、入試本番前の準備として、プレテストと前入試、さらに内申が必要な学校について、それぞれご説明いたします。

2006年に近畿圏統一入試となってから、多くの受験生が入試統一日初日に第一志望校を受験することになりました。

しかし、練習もなく本命校を受験して普段の実力を全て発揮することは、小学6年生にとってなかなか難しいことだと思います。どんなに日進でテストの練習を積んでいても、やはり入試本番は急に不安になったり緊張したりする人が多くなります。その克服のためには、試し受験をして慣れすることが大切です。そこで、おすすめなのが、「プレテスト」と「前入試」の受験です。プレテストは実際に試験会場となる学校でテストを受けることができますし、前入試は本命校の前に本物の入試を受けるという経験ができます。どちらも、日進とは違い、周りに他塾生が多い状態で、つまり入試本番に近い状態で試験を受けることができます。本命校受験当日に戸惑わないためにも、プレテストと前入試で練習をしておきましょう。

また、この数年で入試の様式は多様化しており、小学校の内申(調査書)を必要とする入試方式が増えてきました。その中には、出願の事前許可申請が必要な学校も多くあります。10月頃から出願許可申請書類の受付を開始する学校が出てきますので、志望者は申請書類を準備する時期となります。

それでは、入試本番前の準備として、プレテストと前入試、さらに内申が必要な学校について、それぞれご説明いたします。

プレテスト

プレテストとは、10月から12月に掛けて、小学6年生を対象に各私立中学の主催で学校を会場として行われるテストです。大阪の中学では盛んに実施されていますが、近年では京都の中学でもプレテストに類するテストを実施する学校が増えてきました。

プレテスト受験の利点は、大きく5つあります。

(1) 実際に入試会場となる学校で受験できる。

各学校で開催されますので、入試当日の雰囲気を感じることができます。

(2) 現時点の実力確認ができる。

各中学の入試傾向に沿った問題が出題され、通常は数日～2週間でテストの結果が返却されます。学校によっては、領域別の理解度等の詳細な結果がもらえますので、実力確認として利用することが可能です。

(3) 他塾生と同じ教室と一緒に受験できる。

日進で入試の練習をしても、周りに他塾生が多くいる状態になると、戸惑うことがあります。プレテストを受験することで、そういう状態に慣れることができます。

(4) 学校を見学できる。

最近になって併願校として受験を考え始めたが、全くその学校を知らない場合、合格して入学したい学校かどうかを確認する機会にもなります。プレテスト実施時間に、同時開催で保護者対象学校説明会を実施する学校もあります。

(5) 問題傾向を知ることができる。

今年度は、次年度新設の中学校である**関西大学北陽**や**京都橘**がプレテストを実施します。過去の入試問題がない中学校ですので、入試難易度や問題との相性を確認する上で、プレテスト受験は大きな意味を持ちます。これらの中学を受験する可能性がある6年生は積極的に受験してください。

小学5・6年生には、10月中旬頃に「中学入試データブック-確定版-」を配布いたします。小学6年生の方は、プレテスト日程一覧をカレンダー形式で掲載しておりますので、ご確認ください。一部有料の学校もありますが、多くの学校では、無料で実施しています。また、事前予約が必要な学校がほとんどですので、受験の際は、学校にお問い合わせください。

成基学園の園生が、多く受験しているプレテストとしては、**大阪桐蔭・履正社学園豊中・ノートルダム女学院**などが挙げられます。今年度、上記3校と**関西大学北陽・京都橘**のプレテストにつきましては、成基学園各校窓口にてお申し込みいただけます。小学6年生受験コースの方には、学校毎に案内文書を別途お配りいたしますので、申込受付期間等の詳細はそちらをご確認ください。なお、学校に個人で直接お申し込みいただいても構いません。

【 入試統一日(1/16)以前に受験できる学校 】

前入試の学校

前入試とは、関西圏以外の寮を持つ学校が、統一日(2010年度では1/16)以前に関西で実施する入試のことです。毎年、1月上旬に実施され、関西圏の多くの受験生が受験します。実施学校は、右図をご参照ください。

入試ですから、合格の通知も出ますし、入学することも可能です。ほとんどの6年生にとって、最初に「入試本番」を経験する機会となります。2010年度入試で、最も早い入試が**岡山中学**(難関大コース)の1/4です。そこから約1週間の期間で各中学の入試が実施されます。多くの受験生が、入試本番前の練習として1～2校を受験します。

入試日程	学校名	関西 試験会場
1/4 (月)	岡山・難関大コース (岡山県)	天満研修センター
1/5 (火)	岡山・東医コース (岡山県)	天満研修センター
1/6 (水)	香川誠陵 (香川県)	大阪国際交流センター たかつき京都ホテル 神戸国際会館
1/6 (水)	帝京富士 (愛媛県)	天満研修センター 神戸国際会館
1/8 (金)	土佐塾 (高知県)	新梅田研修センター 天満研修センター
1/9 (土)	片山学園 (富山県)	三井ガーデンホテル 大阪淀屋橋
1/9 (土)	函館ラ・サール (北海道)	マイドーム大阪
1/9 (土)	如水館 (広島県)	新梅田研修センター
1/10 (日)	海陽中等教育学校 (愛知県)	ハービスPLAZA

成基からの受験者が多い学校としては、**函館ラ・サール**、**土佐塾**、**香川誠陵**があります。他に、**片山学園**、**帝京富士**(とみす)などがあり、10入試からは甲子園に出場した**如水館**も関西で初めて入試を実施します。

第一志望校の入試で力を発揮するためにも、ぜひ「前入試」で練習をしてください。どの学校を前入試で受験するかは、各校の教務や担任とご相談ください。

内申や活動歴重視型の入試制度

中学入試では、入試の様式が多様化しており、小学校の内申(調査書)を必要とする入試方式が増えました。**立命館宇治**から始まった「自己推薦方式」と呼ばれるこの入試は、大学のAO入試や一芸入試のようなものと思っただくとわかりやすいかもしれません。

下の【内申や活動実績重視型入試を実施している学校一覧】をご覧ください。実施している学校を見ると、国公立大学への進学を目指す中学校はほとんどなく、大学附属校が中心です。また、内申や活動実績重視型入試を実施している学校には、事前の出願許可申請が必要な学校と、必要でない学校があります。

【内申や活動実績重視型入試を実施している学校一覧】

事前許可申請が必要な学校	
● 京都文教 総合進学コース(自己推薦)	● 甲南(I期b方式)
● 立命館宇治(自己推薦・推薦・SAコース)	● 武庫川女子大附属(M方式)
● 龍谷大付平安 AO(エーゼロ)入試	● 比叡山 一隅(いちごう)入試
● 京都女子(Wコース)	● 立命館守山(かがやき入試)
● 同志社女子 LAコース(自己推薦)	● 金蘭会(自己推薦)
● 平安女学院(自己推薦)	

+

事前許可申請の必要がない学校	
● 立命館(前期A方式)	● 大阪薫英女学院(英語推薦)
● (京都)大谷(S入試)	● 早稲田摂陵(活動実績重視型入試)

出願許可申請が必要な場合は、事前審査を経て、許可された場合のみ出願可能となります。許可申請は10月・11月頃から受付が始まり、事前審査の結果は12月中に通知される場合がほとんどです。その後、1月に入試が行われますが、当日は作文と面接のみを実施する学校が多いです。合格発表も、他の一般入試と同じように行われ、ほとんどの方が合格されています。しかし、まれに不合格になる方もおられますので、出願許可が出たからといって、油断は禁物です。出願許可が出たほとんどの方が、念のために他校を併願受験されています。

なお、出願許可が出た場合は、出願辞退はなるべく避けましょう。事前に申請許可が出る学校の場合、学校は募集定員を考慮して許可人数を出しています。どうしても辞退しなくてはならなくなった場合は、速やかに学校にその旨をご連絡ください。

事前の出願許可申請が必要な学校の受験をお考えの場合は、まずは入試相談会や学校説明会の個別相談で学校にご相談ください。通知表のコピーや日進・オープンテスト等模試の結果、資格確認ができる資料(賞状)などを持っていくと話しやすいと思います。個別相談に事前予約が必要な場合もあります。個別相談の後、事前許可申請用の書類を受け取り、必要書類を揃えて申請をするパターンが多いです。その後、面接を実施する学校もあります。

また、事前の出願許可申請が必要でない学校の受験をお考えの場合も、まずは学校にご相談されることをおすすめいたします。内申や活動実績重視型入試で受験した方がよいのか、それとも一般入試で受験したほうがよいのか、学校に事前に確認した方が安心して受験することができます。その際は、先程と同じく、通知表のコピーや日進・オープンテスト等模試の結果、資格確認ができる資料(賞状)などがあると話しやすいです。

許可申請には、申請書類を揃える必要がありますので、早めの準備が肝心です。内申は小学5年生と6年生の2年分を必要とする場合が多いので、検討されている5年生以下の方は、どのような資料が必要なのかを早めに確認し心積もりをされると良いと思います。

～まとめ～

今回は、入試本番前の準備として、プレテストと前入試、さらに内申が必要な学校について、それぞれご説明しました。プレテストと前入試の受験で第一志望校の入試前に練習をして、場慣れすることが大切です。また、内申が必要な学校を受験志望の方は、各学校の入試要項を確認し、早めに準備されることが大切です。

次回は、10/27発信予定です。次回は、次年度入試のトピックスをお伝えします。